



広がる子ども食堂

一食を通じた「子どもの居場所」活動団体の顔合わせ会から

今、子ども食堂の注目度は大きく、全国はもちろん柏でも広がっています。この集まりの段階で8団体ほどが意欲的に活動しており、そんな様子を踏まえ、去年の12月18日に柏市社会福祉協議会の呼びかけで集ってみました。集まったのは13団体。人数は30名（柏市社協職員や個人参加含む）。これから始めようという団体や関心がある個人の参加もありました。

柏市の団体はいずれも去年から始めており、週1回から月1回の開催で、公的な場所を使用しているところが多いという大さっぱな概要。

自己紹介をしながら活動の紹介や課題、意見交換へと移りました。

主だった課題として

- ①公共の場所を使用する場合、予約制で確保が不安定であること
- ②そのたびに使用するものを運ばなければならず、会場に置き場が欲しい
- ③食堂に来る人の人数を見込むのが難しいため、食の準備に悩む
- ④食材費は会費を出し合うなどしており、あまり持ち出しばかりでは継続性が心配
- ⑤いろいろなリスクを保障する保険がほしい



などなど。

これらの課題も団体により事情が異なり、したがって要望もさまざまです。共通しているのは、悩みもあるがやりがいを感じていること、できる限り続けていきたいという思いです。

すでに現在、3団体がまた新たに立ち上がる予定で、今後も増えていくことが予測されます。ネットワークも全国規模や、千葉県の連絡会もできているなど機運が高まっています。この集まりはまた様子を見て開催しようというゆるやかなものですが、同じような活動をしているお互いが知り合うことができ、そこが大事だったと思います。

子ども食堂だけでなく、ボランティアな活動は「ひと・もの・かね」の問題がついて回ります。自発性に基ついたさまざまな活動が何かに躓き継続性が危ぶまれることは常に繰り返されてきたことです。危機を乗り越えたとしたら何が必要か、自助努力以外にも公的支援があるべきか、などこの先はそのような議論も起こってきてもいます。

制度にはできない豊かな発想の活動が多くあることがその地域を誰もが暮らしやすくしていきます。そのひとつが子ども食堂です。このように広がったのはこれならできそうと思える日常の延長線上にイメージできたり、食の大切さや力を感じる人が多いから。また貧困の問題だけでなく子育ての悩みを親だけが抱え込まずに、地域で子どもを見守り、〇〇ちゃんと声をかけられる大人が増えること。こどもが通える範囲の数ほど子ども食堂よ広がれ！とエールを送りたいし、協力したいですね。



発行日 2017/2/3

社会福祉法人生活クラブ
柏市地域生活支援センター
あいネット

〒277-0004
柏市柏下65-1
ウェルネス柏内
電話: 04(7165)8707
FAX: 04(7165)8709

目次

広がる子ども食堂	1
千葉県ひきこもりサポーターフォローアップ研修	2
千葉県高等学校教育相談部会	2
就労準備支援室より	3
柏うお〜か〜	4
お知らせ	4

〜ひとこと〜

2月と言えばバレンタインですね。毎年家族に贈っているのですが、昨年はロシアンルーレットチョコにしました。当りは予想以上に辛かったようで、一口食べた弟の顔は真っ赤！今年は昨年を上回るサプライズを仕掛けたいと思います。

千葉県ひきこもりサポーターフォローアップ研修

H29.1.23 千葉市市民会館

今回の研修では事例検討を中心とした実務研修でした。

午前中はひきこもりについての理解ということでKHJ千葉県なの花会の藤江理事長より、現状とここ最近の傾向についての説明がありました。

2016年9月の内閣府発表では、ひきこもっている方は全国に推定54万人いるとの事です。しかしこれはあくまで15歳〜39歳までを対象とした調査であり、最近高齢化問題と共に相談が増えている80・50問題（70・40問題）、つまり70代、80代の親世代が40代、50代のひきこもりの子を抱えている世帯に関しては調査対象外となっていることを挙げていました。親の高齢化と共に経済的な面だけでなく、兄弟姉妹の相談も増えています。その一方で当事者活動も活発になってきており、平成28年11月1日、当事者達の生の声が寄稿されている『ひきこもり新聞』が発行されました。

この日はこの新聞作成に携わった当事者の方（20歳〜34歳までひきこもり生活）が自身の体験から外に出て就業するまでの経緯をお話して下さいました。ひきこもっていた時期も拒食など辛かったこと、実際社会に出てから生き方がわからないがゆえに辛かった経験、それを一緒に考えてくれ、伴走してくれる人がいたことへの感謝の気持ちを打ち明けて下さいました。

午後は実際に支援に携わっている研修参加者からの事例を、名古屋オレンジの会の鈴木美登里代表、当事者、なの花会の方たちと一緒に検証しました。当然のことながら氏名等の個人情報は伏せての事例検討だったのですが、困難を感じるケースに類似点が多いことを痛感しました。特によかれとおもっている当事者に対する支払代行等のお金の支援は、本人は生活上全く困らないため、ひきこもりが長期化し、外からの支援を受け入れにくくなってしまいう可能性が高いそうです。

ひきこもっている本人にしても「一人暮らししたい」「働きたい」「医療にかかりたい」など想いはたくさんあるものの、メッセージの発信の仕方が分からない、差し伸べた手を握り返す力が残っていないこともあります。

かんかんががく

当日10名弱の参加者により、3時間以上にわたり侃々諤々とした熱い議論が交わされました。立場は違えど皆さんがひきこもりに関する熱い想いを抱えていることを共有できた一日でした。

平成28年度 千葉県高等学校教育相談部会

1/17に千葉県立我孫子東高等学校にて教育相談部会 東葛飾・印旛地区合同研修会が開催されました。「地域と学校の連携 高校生の生活相談の課題」と題して筑波大学の星野豊先生と当該地区の千葉県高等学校教育相談部会の会員の先生、中核地域生活支援センターの職員等で仮想事例の検討がなされました。

不登校になった生徒に対して学校側がどこまで関わられるのかが大きなテーマになりました。学校でのいじめがあり、不適応を起こしている生徒に対してクラス替えや指導による環境調整だけでなく、家庭環境の調整も必要な事があります。その場合に学校としてどこまで入り込めるのか。例えば、家庭環境の調整として市や関係機関を巻き込む場合に、誰が支援チームを作るのか。（生徒や）家族が学校以外のところに相談する事に拒否的な場合にどのように他機関につないでいけばよいのか等の意見も出ました。

最近SNSの普及により生徒間の情報の発信の仕方が大きく変わりました。SNSを通して複数から攻撃される事（いじめやハブり）もあるとの事でした。そういったSNSのやりとりに対して学校の立場でどこまで指導が出来るのかも課題として挙がりました。子ども同士のコミュニケーションツールが多様化する中で、学校側だけで状況を把握し、生徒に関わっていく事の難しさを感じました。先生方は授業の他にも部活や生徒指導もあり、負担が大きいと感じます。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーのより一層の普及が必要であり、関係機関との連携を通して学校だけで抱え込まない体制を地域で構築していく事が必要だと感じました。



あいネット就労準備支援室より

就労準備支援室からは、就労についての情報をお届け致します。講座にもぜひご参加ください。



免許・資格の書き方は？ No.14-4



全ての免許の取得年月日を知る方法

免許証の左下にある取得年月日欄は、バイク関係を表す「二・小・原」、四輪関係を表す「他」、二種をひとまとめにした「二種」の3つしか枠がありません。同じ「他」でも、「大型」と「中型」と「普通」を取得した人は、ここに書かれている日付がどれのものなのか、書かれていないものはいつ取ったのか、残念ながら免許を見ただけではわかりません。

2007～2010年に段階的にICチップ入り免許証に切り替わってからは、警察署もしくは免許センターの専用端末を使用することで、記載のない種類の免許取得日を知ることができます。端末の利用には免許を取得・更新した際に設定した暗証番号が必要になります。



精神科デイケアの目的と効果 no14-3



精神科デイケアの目的と得られる効果とは

医療者に相談しやすいというメリットがあります。精神科デイケアは、精神科医を始め、看護師、臨床心理士、ソーシャルワーカーなど様々な職種の医療関係者がいます。デイケアに参加するたびに、これらの医療職者に相談できるというのは精神科デイケアの大きなメリットです。定期的にデイケアに参加していると、病気に対する小さな不安でも相談しやすい環境を作れます。

これは患者さんの安心にもなります。



今月の講座案内

講座受講希望の方は日程調整いたします。ご連絡ください。



コミュニケーション講座

面接の模擬をしたり、気持ちが楽になるコミュニケーションの方法をお伝えします。ワークを通してスキルを高めましょう！



キャリア講座

自分を振り返りながら、仕事についても考えてみましょう！



パソコン講座

Word・Excelを通してパソコンの基本的な操作を覚えられるようお手伝いします。マンツーマンが基本ですので、ご自分のペースで練習する事ができます。



職場体験

デイサービス「あじさい」で高齢者が自立した生活ができるようお手伝いをします。車で送迎します。昼食代500円頂きます。



この講座は、生活困窮者自立促進支援法に基づく支援を利用されている方に向けてのプログラムです。対象ではない方で利用希望の方は電話でご相談ください。

おしゃべりばー（喫茶） きゃべつ かしら 柏うお〜か〜

柏駅東口から徒歩10分程の場所にあるおしゃべりばー「きゃべつ」へお邪魔しました。責任者の吉田さんは認定NPO法人いもむしの理事長としても柏市内で活動をされています。

どんな場所ですか？

誰でも利用出来る喫茶です。昼食の提供（11：00～14：00）、アンテナショップ（11：00～18：00）、レンタルスペース（講座によっては有料）、ばーばの知恵袋（相談・支援）をしています。昼食は1食500円です。第三水曜日にはママティータイムをしており、子連れのお母さんと一緒に語らう場所になります。12月は折紙や毛糸でクリスマスツリーを皆で作りました。

立ち上げた経緯は？

これまで知的障害の分野で活動をしてきましたが、障害者支援としての居場所（生活介護や放課後等児童デイサービス、地域活動支援センター等）はある程度整ってきたように思います。そんな中で健常者の居場所が少ない事を感じるようになりました。母子（父子）家庭でダブルワークをしている親やその子、身寄りのない高齢者等は人とつながる機会が少ないですね。

今後に向けて

子ども食堂をしたいと思っています。子どもも大人も来られる、食事だけでなく創作活動等も通して交流する場になればと思います。交流を通して心を豊かになって欲しいと願っています。

常に新しい取り組みに挑戦される吉田さん。お会いすると「私も頑張るぞ！」といつも元気をいただける、素敵なお方です。昼食はしょうが焼き定食をいただきました。味噌汁、小鉢、デザート、コーヒーが付いて600円。調理された長谷川さんの人柄がにじみ出るお袋の味を堪能できました。ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



お知らせ

こちらのコーナーへ掲載希望の方はあいネットまで
(TEL:04-7165-8707 FAX:04-7165-8709)

第10回チャリティーコンサート“夢”2017



日時：平成29年3月4日（土）開演：15：00（14：30開場）

場所：柏市民文化会館

費用：【前売り/全席指定】大人2,500円 18歳以下1,000円
障がいをお持ちの方の介助者1名1,000円

出演：影山ヒロノブ・遠藤正明・きただにひろし・森圭一郎
東葛合唱団はるかぜ郷土部、トーンチャイム「ひこうせん」

問合せ：チャリティーコンサート夢実行委員会

（社会福祉法人ぶるーむ内） TEL：04-7136-2324

